



この子を救う。未来を救う。



この子を救う。未来を救う。



特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
2019年度 年次報告書

2020年3月発行

発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5350(代表) FAX:03-5334-5359
HP:www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン 2019年度

年次報告書

World Vision Japan Annual Report 2019
2018年10月 - 2019年9月



きみたちは、世界の未来だ。

ごあいさつ

世界の子どもたちのため、ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) をご支援くださり、誠にありがとうございます。2019年度、WVJは、皆さまからのご寄付や国等からの助成金を併せて、60億円を超える過去最高の収入を記録し、多くの子どもたちに支援を届けることができました。これは、「すべての子どもに豊かなのちを」という熱い想いのもと、WVJが一丸となって活動してきた証であり、WVJを支えてくださる皆さまのお力無くしては成しえなかった成果です。

史上最多を記録した難民・避難民、頻発する災害、広がる子どもの貧困。世界には、解決すべき課題が山積んでいます。私たちができることは限られているかもしれませんが、しかし、最も弱い立場にある子どもたちに寄り添い、目の前の小さな課題を解決し続けることこそ、子どもたちの「豊かなのち」に通じると信じています。

私は、2019年10月にWVJの理事長に就任しました。2014年から理事としてWVJの働きに従事し、それ以前は、政府や民間金融機関にて主に国際業務やマネジメント業務に取り組むとともに、チャイルド・スポンサーとしての支援も続けてまいりました。こうした経験を活かしつつ、決意も新たに挑戦を続けてまいります。今後とも、皆さまの尊いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

小西 孝蔵



2019年度の私たちのキーワードは、「一歩踏み出す」でした。世界の子どもたちの環境は、改善を遂げている嬉しい進展がある一方で、まだ多くの課題が山積しています。紛争により「家を追われた」人々は今や7,000万人を超え、難民となった人々の約半数は18歳以下の若者と子どもです。また、貧困の連鎖が断ち切れず、広がる格差に苦しむ子どもも増えています。気候変動に伴い甚大化する干ばつや大雨が追い打ちをかけます。

私たちの支援は、こうした子どもたちが、国や地域の再建を担う者として力強く生きていくためのものでなくてはなりません。効果的でインパクトがある支援をするために、より多くの方にこの実情を知っていただくために、悩み試行錯誤する一年でした。何より難しかったのは、新たなことに「一歩踏み出す」勇気を持つことでした。

その私たちの背中を押したものが3つあります。まずは、ご支援者からの温かい励まし。2つ目は、ともに「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成を目指す市民団体、企業、政府・国際機関との切磋琢磨。そして、大きなパワーと可能性を秘めた子どもたちの存在です。私たちだけでは持てなかった勇気を、多くの方から授けていただいたことに、スタッフ一同、心から感謝申し上げます。2020年度もどうぞよろしく願いいたします。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
事務局長

木内 真理子



2019年度 年次報告書 目次

数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン …	03	企業・団体との連携 ……………	19
2019年度 活動マップ ……………	05	広がる支援の輪(特別プロジェクト) ……	21
チャイルド・スポンサーシップのしくみ ……	07	皆さまとともに ……………	22
チャイルド・スポンサーシップによる事業 …	09	2019年度 会計報告 ……………	24
募金や他団体との連携による事業 ……………	13	2019年度 支援事業一覧 ……………	27
国内での事業 ……………	17	ワールド・ビジョンについて ……………	29
アドボカシー ……………	18		

基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
 私たちは貧しい人々のために献身します
 私たちはすべての人を価値あるものとします
 私たちは仕えるものです
 私たちはパートナーです
 私たちはすぐに対応します

ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
 すべての子どもに豊かなのちを
 私たちの祈りは、
 すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
 Our Vision for every child, life in all its fullness
 Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
 国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、
 貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
 正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
 私たちは、このミッション実現のために、
 総合的かつ全体的な方法で、右の動きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2019年度の活動概要を、数字でご紹介します。



活動国・事業数

総事業数

32カ国で159事業※

開発援助 事業数

24カ国で85事業

うち、チャイルド・スポンサーシップ事業数
21カ国で45事業

緊急人道支援 事業数

16カ国で74事業※

※:西日本豪雨緊急支援事業含む

活動を数字 とりまく数字

チャイルド・スポンサー数
48,426人

チャイルド数
57,575人

チャイルド・スポンサー
以外の募金者数
15,685人

チャイルドから
チャイルド・スポンサーへの手紙
約40,000通

補助金等による支援
8団体 76件

イベント開催回数
25回

連携企業・団体数
2,901社・団体

職員数
(嘱託・アルバイト3人を含む) 82人

海外派遣・駐在
スタッフ数 9人

ボランティア数 334人

資金の集め方

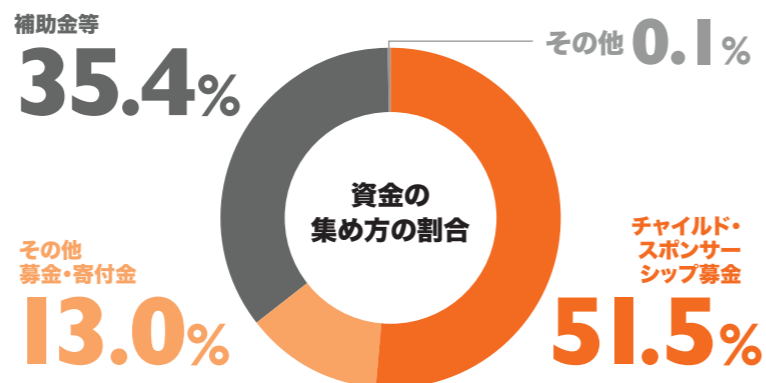
2019年度の経常収益

詳しい会計報告はP24をご覧ください

60億 6,992万円

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の5割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水・食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

2019年度の経常費用

詳しい会計報告はP24をご覧ください

58億 3,536万円

資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため

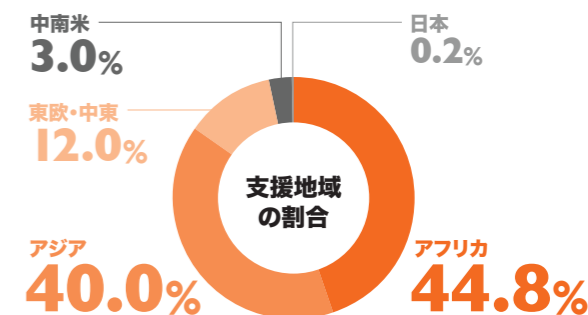
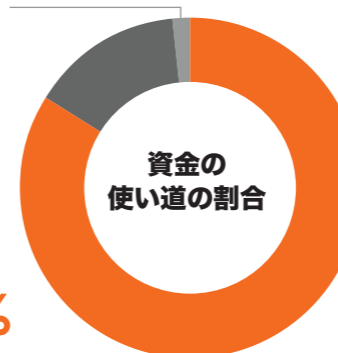
1.5%

広報活動のため

14.6%

現地事業活動のため

83.9%



ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界32カ国で159の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパンは、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2019年度は世界32カ国で159の事業を実施しました。



多くの日本人スタッフが
世界各地で支援活動に
従事しています(2019年度実績)

長期派遣

渡邊 裕子	ヨルダン	2015/3~
大沢 歩	エチオピア	2016/3~2019/3
加藤 奈保美	ネパール	2017/1~
松岡 拓也	カンボジア	2017/2~
西島 恵	バングラデシュ	2018/3~2019/4
大井 光一	ウガンダ	2018/4~2019/1
岡田 航	ウガンダ	2019/3~
古田 ちあき	イラク	2019/4~
松崎 紗代	ヨルダン	2019/9~

アフリカ

開発援助



支援地域の方々と李スタッフ
(マラウイのクーユAP)

開発援助



小学校で学校給食が開始され、
大喜びの子どもたち(ケニア)

開発援助



小学校に通う子どもたちと望月スタッフ
(コンゴ民主共和国のトヨタAP)

開発援助



地域の方々と聞き取りをする木戸スタッフ
(手前左)と大沢スタッフ(手前右)
(エチオピアのゴンダールスリアAP)

緊急人道支援



支援により完成した小学校の開校式。出席して
くださった駐南スーダン日本国岡田大使
(中央)とWVJスタッフ(南スーダン)

東欧・中東

緊急人道支援



修復された教室で学ぶ小学生たち
(イラク)

緊急人道支援



教育支援事業に参加しているシリア難民
の子どもと渡邊スタッフ(ヨルダン)

アジア

開発援助



「子どもの日」記念行事を企画運営した
子どもフォーラムのメンバーと高橋スタッフ
(インドネシアのトウナAP)

開発援助



支援活動について現地の方々から
聞き取りをする村井スタッフ(カンボジア)

開発援助



栄養のある食事の作り方を学ぶお母さん
たちから聞き取りをする今西スタッフ
(バングラデシュのカルマカダAP)

開発援助



支援地域の子どもたちと加藤スタッフ
(ネパールの西ティAP)

緊急人道支援



ミャンマーから逃れてきたロヒンギャ難民
の女性に支援キットを渡す平本スタッフ
(バングラデシュ)

中南米

開発援助



家族や地域の問題を共有し支え合う
高校生の自助グループ
(エルサルバドルのサンアグスティンAP)

日本国内

緊急人道支援



西日本豪雨で被災した保育所に量
を届け、保育の再開につながりま
した(広島県)

地域ごとのWVJ活動国リスト

アフリカ

ウガンダ エチオピア
ケニア コンゴ民主共和国
スーダン エスワティニ(スワジランド)
ソマリア タンザニア
マラウイ 南スーダン
モザンビーク ルワンダ

東欧・中東

アフガニスタン
イラク
シリア
ヨルダン
レバノン

アジア

インド インドネシア
スリランカ タイ
バングラデシュ フィリピン
ミャンマー モンゴル
日本

中南米

カンボジア
ネパール
ベトナム
ラオス
エクアドル
エルサルバドル

※AP(Area Program)と書かれているのは、チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラムの事業です。
詳しくはP7-12参照

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にしたお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健・栄養改善、教育、生計向上、子どもの保護等の地域の課題に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、さらに発展できるように、人材や住民組織の育成にも力を入れています。

保健・栄養 健康と成長を守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成し、子どもの病気予防や栄養状態の改善、妊産婦のケア等の啓発・トレーニングを行います。また、保健施設や備品の整備等も行います。



身近にある食材で栄養価の高い食事を作る研修を実施しています(ベトナムのトアンザオAP)

生計向上 家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定して収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄・融資組合の活動支援等、地域の特性を活かした活動を行います。



起業支援トレーニングの様子。自分の経験や特技を活かして生活を向上させたいと願う女性や若者が多く参加しています(スリランカのリディマリヤッダAP)



※AP=Area Program(チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラム)

教育 学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象とした啓発活動を実施。教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や、教師へのトレーニングを行います。



支援により建設された新しい校舎と制服を喜ぶ子どもたち(マラウイのクーユAP)

水衛生 安全な水が飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちの病気を防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



「家のすぐ近くに井戸ができて本当に幸せです。もう今までのように水を買うためにたくさんお金を払う必要がなくなりました」(カンボジアのトモ・ブオAP)

子どもの保護 子どもの健やかな成長を支えます

子どもを虐待や労働・搾取等の暴力から保護し、すべての子どもの権利が守られ個性が尊重されるよう、地域のリーダーや保護者・子どもたちを対象にした啓発・トレーニング等を行います。



子どもが健やかに育つよう親子向けの研修プログラムを実施しています。歌やゲーム、図画工作等を交えて楽しく学びます(エルサルバドルのティエラ・ヌエバAP)

チャイルド・スポンサーシップのプロセス

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、約15年。支援地域の人々が、支援終了後も子どもたちを健康に育て、学校に通わせ、自分たちで問題を解決できるようになることを目指しています。

準備

地域の人々や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定を行います。

開始 ▶▶▶▶

それぞれの支援地域のニーズに合わせて、子どもたちの保護等の活動を行います。

現在実施中の地域プログラム(AP)

キルヤンガ(ウガンダ)、ゴンダール・ズリア、テラ(エチオピア)、イラマタク、キアムボゴ(ケニア)、カンボ、トヨタ(コンゴ民主共和国)、ゲゲ、シェウラ(エスワティニ(スワジランド))、ゴロワ、ムキンガ、ムグラ(タンザニア)、クーユ(マラウイ)、キラムルジ、グウィザ(ルワンダ)

活動が進みます

水衛生、保健・栄養改善、教育、生計向上。事業計画に基づき、評価や見直しをしながら進めます。

カンドゥクール、キラユ、サイダベト、ブドゥコッタ(インド)、トウナ(インドネシア)、トモ、ブオ、ボニャー・ルウ、ボレイ・チュルサー(カンボジア)、リディマリヤッダ(スリランカ)、タブラヤ、トゥンク(タイ)、西ドティ(ネパール)、ビルゴンジ、ピロル、フルバリア(バングラデシュ)、サマル、レイテ(フィリピン)、ダバック、チャンエン、トアンザオ、ムオンチャ(ベトナム)、タバウン(ミャンマー)、ハイラアスト、バヤン・ウルギー(モンゴル)

卒業準備

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

コルタ、ブンガラ(エクアドル)、サンアグスティン、ティエラ・ヌエバ(エルサルバドル)

卒業

すべての子どもたちが「豊かないのち」を生きられるよう、地域の人々によって活動が継続されます。

2019年度に卒業した地域プログラム(AP)

ナラウェヨ・キシータ(ウガンダ)、カルマカンダ(バングラデシュ)

開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ

該当の地域 ムキンガ(タンザニア) 支援期間 2009年～2025年

—タンザニアからの報告—

ムキンガ地域プログラム



支援の背景

未来の可能性をしばませる読解力の低さが課題に

タンザニアの商業都市ダルエスサラームから北へ400kmのところにあるタンガ州ムキンガ県で実施されているのが、ムキンガ地域プログラム(ムキンガAP)です。支援地域は州の中でも特に貧しい地域で、年間を通じて十分な食料を得られない、衛生状態が悪く感染症が頻発する、教育環境が整っていない等の問題を抱えていました。

2009年から開始したムキンガAPでは、子どもたちの健康状態が改善し、生計向上プログラムにより世帯収入も向上。子どもたちの学校の登録率や出席率が上がるなど、良い方向へと進んでいるものの、子どもたちの読解力が低いことが課題となっています。読解力は、進学や就職の際にも必要なライフスキル。この力を身につけることは、子どもたちが大きな可能性を持つことにつながります。



支援前は木の下で学んでいました

これまでの主な成果

読書キャンプに参加して本を読む楽しさを実感

教育

この地域の子どもたちの多くは、本を読む習慣がありませんでした。そのため教師やコミュニティのリーダーに対して、読書が読解力の習得につながることを啓発から活動を始めました。また、政府の教育担当者の協力を得て、「読書キャンプ」と呼ばれる読書会を支援地域内10カ所で開催。不足していた教室の増設や教材も支援しました。さらに、教師に対しては読み方の教授法について研修を実施しました。こうした取り組みの結果、毎土曜日の朝に開かれる読書キャンプには、336人もの子どもたちが参加。本を読む楽しさを実感しています。32人いる教師たちも、子どもたちの読解力が少しずつ向上していることを実感しています。



▲新設された教室
◀読書キャンプに通うウムルカーちゃん(8歳)と教師。ウムルカーちゃんのお母さんは「以前よりも娘の読み書きスキルが向上したのを感じています。嬉しいです」

生計向上

「支援によって、牛が家にやってきました。今では毎日牛乳を飲めますし、牛乳の販売もできます。その収入で、父は学用品を買ってくれます」
イスマリ君(13歳、左端)



子どもの保護

「子どもの権利について議論し、早婚をやめさせるための研修や子ども会議に参加しました。今では、子どもに対する暴力に反対の声をあげるよう、友だちにも教えています」
ハビネスちゃん(13歳、立っている女の子)



該当の地域 サイダベット(インド) 支援期間 2009年～2025年

—インドからの報告—

サイダベット地域プログラム



支援の背景

地域の衛生環境が悪く子どもへの暴力問題が深刻化

インド南部、ベンガル湾に面する商業都市チェンナイにあるサイダベット地区で、サイダベット地域プログラム(サイダベットAP)を実施しています。ここでは、地方から職を求めてチェンナイにきたものの安定した職業に就くことができず、日雇い労働に従事する人々が狭い居住区に密集して暮らしています。衛生環境は劣悪で、子どもの栄養不良、家庭内や地域の子どもの暴力も大きな問題でした。

2009年に支援が開始されてからは、家庭の収入向上、子どもたちの栄養改善等の成果がみられました。しかし、2015年に発生した洪水により、移住を強制された住民がいたり、公共サービスの復興が遅れている地域がある等、地域の治安にも大きく影響が及んでいます。麻薬の密売や子どもに対する身体的・性的虐待も後を絶ちません。



サイダベット地区の様子

これまでの主な成果

子どもへの暴力をなくす取り組みを実施

子どもの保護

「子どもクラブ」の活動では、子ども自身の権利や生きるために必要なライフスキル、不適切な身体的接触があった際の緊急フリーダイヤルの存在等について教えています。リーダーのミトラちゃん(12歳)は、友だちの身体を触ったり、喧嘩をする男たちが集まる近所の店を、緊急フリーダイヤルを使って通報。地域住民で組織される「子ども保護グループ」にも報告しました。後日、地元の麻薬取締チームがその店を強制捜査し、麻薬の密売人が逮捕され、店への立ち入りも禁止になりました。ミトラちゃんが子どもクラブで学んだことを実践したことをきっかけに、町の治安も改善されつつあります。



▲ミトラちゃんとお母さん。お母さんは、地域の「子ども保護グループ」のメンバーでもあります
◀ミトラちゃんがリーダーを務める「子どもクラブ」の活動の様子

生計向上

「生計支援プログラムにより、収入を増やす方法を学ぶことができ、嬉しいです。今では、子どもたちの医療費と学費を払うことができています」
(左端の女性)



水衛生

「以前は、手の洗い方を知りませんでした。手洗いの手順について学ぶことができ、嬉しいです。今では、手洗いが私たちの習慣になっています」(15歳、一番背の高い女の子)



2つの地域プログラムが卒業(支援終了)を迎えました!

支援卒業報告

カルマカンダ地域プログラム(バングラデシュ)

支援期間 1994年度～2019年度

自分たちで活動を継続できる自信が生まれました

保健・栄養改善、教育、生計向上に加え、この地域特有のニーズである防災・まちづくりの支援を、25年間*にわたって実施しました。今では、栄養価の高い食事の作り方を教える栄養改善プログラムや就学前教育の活動は、地域の人々が中心となって実施しています。また、洪水が発生しやすいこの地域の人々が安心して暮らせるよう、防災知識の普及や、道路や橋の整備も実施。雨期でも移動がしやすくなりました。

プログラム初期に支援を受けていた子どもの中には、教師や保健クリニックの職員となり、地域の子どもの健やかな成長のために働いている人もいます。これまで育成してきた住民組織は、地域開発に取り組む団体として地方政府に登録されるまでに成長。「これからは、私たちがミニ・ワールド・ビジョンになって、この地域をより良くしていきます」と意気込みを話してくれました。

*チャイルド・スポンサーシップの支援期間は通常約15年ですが、この地域は洪水が頻発したため長期間の支援となりました

Before

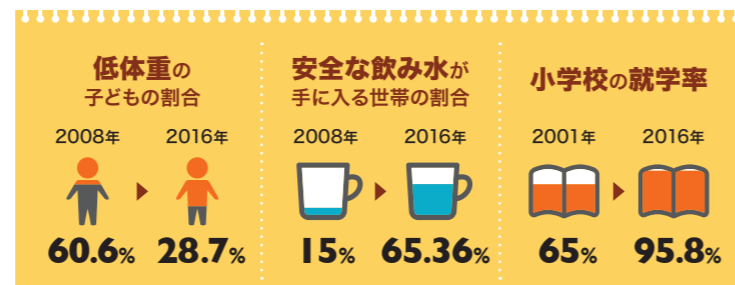


栄養のある食事の作り方を知らない母親が多く、低体重の子どもの割合が多かった

After



栄養改善プログラムにより、多くの子どもたちの栄養状態が改善しました



支援卒業報告

ナラウェヨ・キシータ地域プログラム(ウガンダ)

支援期間 2004年度～2019年度

子どもたちが安心して暮らせる場所へと変わりました

教育、水衛生、農業による生計向上、HIV/エイズ対策等を中心とした活動を15年間実施。以前は部族間の争いにも問題を抱えていましたが、この15年間の支援により、住民の組織能力を高め、地域が子どもたちにとって安全な場所へと変化しました。また、水汲みの道中で女の子が暴行にあたり、不衛生な水による下痢等も問題でしたが、すべての村に安全な水が得られる井戸が設置されています。さらに、壁のない、かやぶき屋根の校舎で勉強していた子どもたちは、雨風をしのげる立派な校舎の中で机に座って勉強できるようになりました。

支援を通じて職業訓練プログラムを受講し、工場で働く男性(20歳)は、「今は母を支え、兄弟たちの授業料を払うことができます。私自身はこれから大学に進学し、自分の工場を立ち上げることが目標です」と語ってくれました。

Before

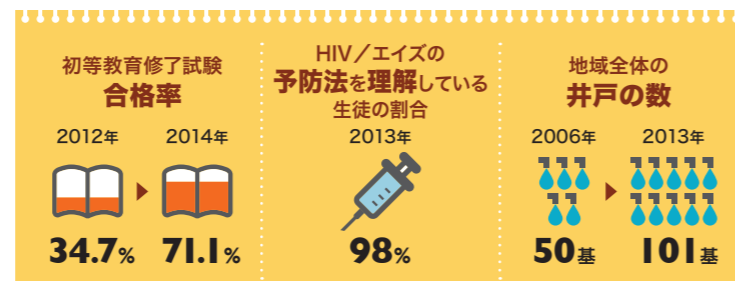


かやぶき屋根の狭い校舎には、壁も机もありませんでした

After



立派な校舎ができて、勉強に集中できるようになりました



チャイルド・スポンサーになると

チャイルドとの深まる絆

子どもたちの成長を見守りながら温かな関係を育み、スポンサーも幸せを感じることができます

手紙によるチャイルドとの交流

支援地域のチャイルドとの目に見えない絆が育まれます

チャイルド・スポンサーになると、手紙のやりとりを通じて、支援地域に住むチャイルドと1対1の関係が育まれます。2019年度は、チャイルドからの手紙約40,000通と、成長報告(支援内容や実績の報告、チャイルドの手書きメッセージ、近影などが含まれます)やグリーティングカード(年末年始のご挨拶)をチャイルド・スポンサーに届けました。



チャイルド・スポンサーからの手紙を友だちと喜ぶチャイルド(バングラデシュ)

ツアーによる支援地域訪問

チャイルドに会い、支援の成果を実感していただきました

1月にミャンマー、7月にケニアへのツアーを開催。計28人のチャイルド・スポンサーが参加しました。「視察地ごとに熱烈的な歓迎を受けたが、これは現地の方々とワールド・ビジョンの絆が強いからこそ」「落ち込んだ時、あの子どもたちの笑顔を思い出すだけで元気をもらえそうな気がします」等の感想をいただきました。



チャイルドやその家族たちと交流し、楽しい時間を過ごしました(ケニア)

動画による報告

チャイルドや支援地域をより身近に感じていただけました

チャイルドや支援地域の様子をご覧いただける動画を、メールでお送りしています。2019年度は、17,051人のチャイルド・スポンサーの皆さまに、チャイルドからのメッセージ動画をお届けしました。「現地の様子が分かって感激しました」「ビデオでチャイルドの声を聞いたり、表情を見ることができて、思わずにっこりしてしまいました」等の感想が寄せられました。



メッセージ動画では、チャイルドが現地の言葉で挨拶や感謝を伝えます

募金や他団体との連携による事業

チャイルド・スポンサーシップによる活動に加えて、皆さまから紛争・災害の中にある人々や子どもたちへ迅速に支援を届け

の募金や日本政府からの補助金、他団体との連携による事業を実施しています。

緊急 子どもの保護

事業実施国 エチオピア、タンザニア、南スーダン、カンボジア、ネパール、ラオス

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力/特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)/国連児童基金(UNICEF)/南スーダン保健合同基金(Health Pooled Fund)

皆さまからの募金額

- 児童保護募金 4,923,346円
- 危機にある子どもたちのための募金 30,559,666円
- プロジェクト・サポーター 56,502,000円
(P16の難民支援分含む)
- 誕生日記念募金 23,368,316円

支援事業報告

アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(エチオピア)



産科棟の開所式には、駐エチオピア日本国松永大使も出席(後列中央)

緊急時に妊婦を運ぶ担架

「5S-カイゼン活動」の成果を語る病院スタッフ

母子保健サービスの質が格段に向上

支援の背景

世界の中でも妊産婦や新生児の死亡率はトップクラス

エチオピアの妊産婦や新生児の死亡率は世界でも特に高く、母子保健サービスへのアクセスや質を高めることが求められています。支援地域のアムハラ州は、エチオピアの中でも保健施設での分娩率や産前・産後検診の受診率が低く、妊産婦死亡率が高いことから、状況の改善が重要な課題となっています。

活動の成果

今ではほとんどの妊婦が保健施設で分娩しています

3カ年事業の最終年として、引き続き、保健センターや郡病院の職員を対象とした産前・産後ケア、新生児蘇生法など、各種研修を実施しました。産科棟1棟、太陽光発電を活用した水供給システム1基、浅井戸1基の設置に加え、焼却炉1基、胎盤処理施設1基を各保健センターに建設しました。また、保健センターを清潔に保ったり薬品・備品を整理整頓する等、患者へ適切なサービスが提供できるよう「5S-カイゼン活動」を行ったことで、保健センターが提供できるサービスの質が向上しました。緊急時に妊婦が保健センターへ移動できるよう、村落部で手に入る素材を使って搬送用の担架を作り、62のグループを組織しました。こうした活動に加えて、男性同士の対話やコミュニティのリーダーを通じた様々な啓発活動を行った結果、ほぼすべての妊婦が保健施設での分娩を行うようになりました。

支援地域からの声

保健センターは頼りになる存在です

「清潔な施設で安全にお産をすることができました。陣痛はとも苦しかったけど、スタッフがとても親切にサポートしてくれました。お産のあと、鉄剤やおかゆをもらい、家でやっているようにコーヒーまでいれてくれたので痛みも忘れられました。保健センターが信頼できる場所だとわかったので産後検診で戻ってきたいですし、私の赤ちゃんに何かあったら頼りになると思います」



保健センターで生まれた子どもとお母さん

支援事業報告

ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(ネパール)



活動の成果

安心して学べる環境の中で、防災意識も向上

地震や洪水等の自然災害が多発するネパールでは、人々の防災への意識が乏しく、守れるはずの多くの命が失われてきました。この状況を改善するために始まった防災の3カ年事業も、最終年に入りました。これまでに、校舎の耐震補強工事を行い、不足していた机や椅子、強風に耐えられる屋根、多発する雷に備えた避雷針等を整備。子どもたちが安心して勉強できる環境が整いつつあります。また、学校では防災教育を実施。いざという時にどのような行動をとればよいか、子どもたちが理解できるようになりました。さらに、地域社会での防災意識も徐々に高まってきています。



学校の壁に描かれた防災マップ

緊急 水・食糧支援

事業実施国 スーダン、ソマリア、南スーダン、モザンビーク、ルワンダ、アフガニスタン、イラク、ヨルダン、カンボジア、バングラデシュ、ミャンマー

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力/独立行政法人国際協力機構(JICA)草の根技術協力/国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)/国連世界食糧計画(WFP)

皆さまからの募金額

- クリスマス募金 97,995,083円
- 水と食糧のための募金 12,115,809円
- ラブ・ローフ募金 1,667,393円
- イラク国内避難民緊急支援募金 3,000円
- 緊急食糧援助募金 14,833円

支援事業報告

マラカル郡における緊急食糧支援事業(南スーダン)



支援の背景

人口の63%が支援を必要とする過酷な状況

南スーダンでは、長期化した紛争の影響により400万人以上の人々が避難を強いられ、国内人口の約63%が人道支援を必要としています。なかでも、事業地であるアッパーナイル地域は、戦闘が繰り返されたことによる慢性的な食糧不足に陥り、5歳未満児や妊娠中・授乳中の女性の栄養不良が特に深刻な問題となっています。また、子どもの教育が後回しになっていることも課題です。



栄養不良の子ども



食糧配布の様子

研修を受けた母親たちによる啓発活動。授乳や栄養改善の重要性を訴えています

子どもだけでなく、母親の栄養状態もチェックします

紛争による慢性的な食糧不足を改善

活動の成果

栄養・衛生の大切さが、母から地域へと広がっています

南スーダン北東部のアッパーナイル地域に位置する5つの郡(マラカル郡・バリエ郡・コドック郡・マニヨ郡・パニカン郡)において、長年の紛争の影響を受けた国内避難民、コミュニティの住民、5歳未満児等、89,060人を対象に食糧支援を行いました。また、栄養改善や就学率を高めることを目的として、12校の小学校の児童6,701人を対象に学校給食を支援。さらに、妊娠中・授乳中の女性への栄養・衛生研修を保健施設で定期的に開催し、研修を受けた母親が学んだ知識を別の母親に共有する母親グループを設立しました。食糧配布を行うだけでなく、栄養不良の根本原因を改善するための啓発活動にも積極的に取り組みました。

数値で見る成果

食糧支援を受けた人

89,060人

食糧配布や栄養改善の指導を受けた5歳未満児と妊娠中・授乳中の女性

13,465人

学校給食が提供された児童

6,701人

支援地域からの声

子どもの健康を取り戻せました

「ワールド・ビジョンが息子のルワーニを支え、支援してくれたことを本当に感謝しています。息子は慢性栄養不良で、よく体調を崩し病気がかかっていましたが、栄養たっぷりの食糧や保健施設のスタッフからの的確なアドバイスのおかげで、健康を取り戻すことができました。栄養・衛生研修を受けた私は、今では母親グループのリーダーの一人として、他の子どもたちや母親たちを支える活動を続けています」



栄養補助食を食べるルワーニ君

緊急人道支援 **難民支援**
Take Back Future
難民の子どもを明日を取り戻そう

事業実施国 ウガンダ、エチオピア、南スーダン、イラク、シリア、ヨルダン、レバノン、バングラデシュ
連携機関 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連開発計画 (UNDP)

支援事業報告

南スーダン難民居住地での教育環境および子どもの保護環境改善事業(ウガンダ)



支援の背景
長期化する避難生活で危険にさらされる子どもたち

2013年の南スーダンでの紛争から約6年経った今もなお、世界最大の南スーダン難民受入国であるウガンダでは約86万人が避難生活を送っています(2019年11月時点)。長期化する避難生活で教育や社会福祉へのアクセスを失った子どもたちは、児童婚や性的搾取等の危険にさらされています。母国に帰還できる見通しも立たず人道支援も限られる中、厳しい生活が続いています。



「短期集中教育プログラム」の卒業式。写真中央は、駐在中の岡田スタッフ

「就学前教育センター」で元気に遊ぶ子どもたち

「就学前教育センター」で勉強する子どもたち



水を汲みに集まった子どもたち

のべ1万人の子どもたちが勉強する喜びを実感

活動の成果
心に傷を負った子どもたちに安心・安全な環境を

ウガンダ北部に位置するピティピティ難民居住地で、南スーダン難民や難民居住地近隣に住むウガンダ人の子どもたちを対象とした支援事業を2018年4月から実施しています。3~9歳を対象とした就学前教育や、9歳以上を対象とした短期集中教育プログラムを通して、のべ1万人以上の子どもたちに教育の機会を提供しました。また、ウガンダの社会福祉士や難民居住地に住む人々と協力し、南スーダンからウガンダに避難する途中で家族と離れ離れになってしまった子どもや障がいを抱えた子ども等、特別な支援を必要とする子どもたちへの地域に根差した支援活動を行っており、子どもたちが安心して安全に暮らせる環境の整備に取り組んでいます。

支援地域からの声

勉強できる喜びを実感しています

「私が南スーダンで暮らしていた時、妊娠を機に退学してしまいました。2016年にウガンダへ逃れて来てから、短期集中教育プログラムで勉強することを父が勧められました。私が勉強している間、学校の近くで兄が家族の食事の用意や子どもの世話をしてくれるため、今はこうして学校に戻ることができました。学校で勉強ができてとても嬉しいです。私の将来の夢は、仕立屋さんになって子どもを養うお金を稼ぐことです」



「短期集中教育プログラム」で学ぶステラさん(17歳)

数値で見る成果

就学前教育を受けた子ども

のべ10,689人

短期集中教育プログラムを受けた生徒

のべ13,882人

個別支援を受けた子ども

5,725人

子どもの保護の研修を受けた地域の人々

631人

皆さまからの募金額

■夏期募金 125,000円
■難民支援募金 82,293,049円
■プロジェクト・サポーター 56,502,000円
(P13の子どもの保護分含む)

■プロジェクト・サポーター(難民支援) 14,100,000円
■シリア緊急支援募金 387,000円
■ミャンマー難民危機緊急支援募金 166,117円

支援事業報告

シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業(ヨルダン)



支援の背景
難民の子どもたちを襲ういじめやストレス

65万人以上の難民を受け入れるヨルダンでは、難民の子どもたちに教育機会を提供するために、多くの公立学校が午前・午後の二部制で運営されています。しかし、授業時間の短縮や教室の混雑等の影響で、一部の子どもは授業についていけなくなっています。また、長引く避難生活や異なる国籍間でのいじめにより、子どもたちは慢性的なストレスを抱え、学校を退学してしまうケースが増えています。



難民キャンプで暮らす人々



女子校での補習授業

補習授業を担当する教師たちを集めた勉強会

質の高い授業を提供できる環境を整備

活動の成果
国籍を超えた交流が子どもたちを前向きにしています

多くのシリア難民が暮らすヨルダン北部の都市イルビドで、学習に困難を抱える子どもたちに向けた補習授業を実施しました。研修や勉強会を行い教師の指導能力の底上げを図ったことで、質の高い授業の提供が可能になったため、授業を受けたすべての子どもたちの成績が向上。学校を退学することなく学習を継続することができています。また、子どもたちのストレスを軽減するためのレクリエーション活動や校内イベント等、シリア人とヨルダン人の子どもたちが交流する機会を積極的に設けました。聞き取り調査では「いじめや暴力が減ったと感じる」「お互いに協力できる」「不安なときの対処法を知っている」との回答が増え、子どもたちの言動に前向きな変化がみられました。

支援地域からの声

分かるまで教えてくれるから、勉強が楽しい

「ワールド・ビジョンが運営する補習授業の先生は、誰も取り残さないようにとても分かりやすい方法で、何回も説明してくれます。クラスのみんが理解したことを確認するまで次の内容に進みません。このように、私たち生徒一人ひとりを大切に扱ってくれます。補習授業のおかげで勉強が好きになり、学校の授業にも自信を持って出席できるようになりました。これからも一生懸命勉強したいと思います」



シリア難民のヤミン君(13歳)

数値で見る成果

補習授業に参加した子ども

432人

補習授業運営のための研修を受けた教職員等

21人

研修に参加した保護者・コミュニティの代表者

のべ296人

緊急人道支援 国内支援

西日本豪雨緊急支援

子どもたちの日常を取り戻すために

2018年7月に発生した西日本豪雨の緊急支援を、前年度に引き続き実施しました。災害で生活環境が一変した子どもたちの日常を回復するため、広島県内7カ所の保育所・幼稚園・学校への備品の再購入を支援したほか、子どもたちが安心して学び続けられるよう、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむと協働で、被災地域のひとり親家庭の子ども27人に「新入学お祝い金」を届けました。

また、2018年12月と2019年1月には、公益財団法人広島YMCAが主催したリフレッシュキャンプの開催に協力。屋内外での様々な体験活動を通じて、被災地の児童のべ106人を対象に心身のストレスケアを行いました。



リフレッシュキャンプでスキーに挑戦する子どもたち

子どもの権利条約キャンペーン

子どもの権利実現へ、誓いをあらたに

2019年は、「子どもの権利条約」が国連で採択されてから30年、日本が批准してから25年という節目の年でした。この機会に、日本社会における子どもの権利の実現をさらに推し進めるために、他団体とともに「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」を立ち上げ、WVJはその実行委員を務めています。4月22日に衆議院第二議員会館で開催したイベントには、年齢や立場の異なる100人以上が集結。子どもたちからの提言も受けつつ、活発な議論が交わされました。



「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」のメンバー



スタッフの声

「すべての子どもに豊かないのちを」の実現のために支援事業に取り組んでいます

西日本豪雨緊急支援の只中で幕を開けた2019年度。東京から通う私たちを温かく受け入れてくださった子どもたちや地域の関係者の皆さまに、心より感謝いたします。頻発する災害に心が騒ぐ中、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」への参加を通じて、災害時に限らず、平時にも子どもの権利が侵害されやすい日本社会の現実を再認識した1年でもありました。「すべての子どもに豊かないのちを」の実現のために働くWVJが、日本社会でもその使命を果たせるよう、引き続き取り組んでまいります。
(高橋布美子スタッフ)

アドボカシー



NGO研究会「子どもの暴力撤廃」セミナー

子どもへの暴力撤廃をさらに進めるために

2019年は、児童虐待防止法の改正や同法への体罰防止規定新設等、子どもに対する暴力撤廃に向けて進展が見られた1年でした。WVJは、平成30年度外務省NGO研究会（「SDGs16.2 子どもに対する暴力撤廃」とNGO）を受託し、1年間の調査・啓発活動を実施。国内外のパートナーの協力のもと、国内の活動を国際的な動きに連動させ、より効果的に進めるための具体案について調査しました。3月7日には、その成果報告として公開セミナーを開催。スウェーデン、カナダ、インドネシアからのゲストと、日本の政策決定者にご登壇いただき、活発な意見交換を行いました。



公開セミナー「子どもに対する暴力撤廃を目指して：世界におけるマルチステークホルダーによる取り組みと日本への期待」の様

SDGサミット2019

国連の会議に代表の一人として参加

2019年9月24日・25日の両日、ニューヨークの国連本部にて「SDGサミット2019」が開催されました。SDGサミットは、2015年9月に持続可能な開発目標（SDGs）を含む「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されてから初めて開催された、各国の首脳級がSDGsの進捗をレビューするための国連の会議です。このSDGサミットに、世界各国から選ばれたNGO等の代表約10名のうちの1人としてWVJの柴田スタッフが参加。会議では、各国首脳による進捗報告と、SDGs進捗の遅れを踏まえ、実施の加速を誓約する成果文書が採択されました。



NGO等市民団体の代表として参加した柴田スタッフ。SDGサミットが開催された国連の会議場にて

*「Take Back Future」キャンペーン

—紛争・貧困で移動を強いられる子どもへの暴力撤廃を教育の力で！—
WVJは、紛争や貧困により移動を強いられる子どもたちに対する暴力を撤廃し、暴力が繰り返されない未来を築くことを目指し、「Take Back Future～難民の子どもを明日を取り戻そう～」キャンペーンを2018年から4年間の計画で実施しています。「教育の力」を通じて、子どもたちが暴力から守られ、健やかに成長し、暴力が繰り返されることのないよう、①日本社会での関心喚起、②支援活動、③アドボカシーに取り組めます。今年度の活動については、①をP23、②をP15-16、③を本ページでご報告しています。



企業・団体との連携

企業との連携

1,728社から、総額258,005,813円のご支援をお寄せいただきました

企業の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売上からの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへの協力など、様々な支援・協力をいただきました。特に近年は「持続可能な開発目標(SDGs)」実現に向け、事業実施のパートナーとしての連携が増えています。

2019年度支援実例紹介(一部)

特別プロジェクトによる支援



武田薬品工業株式会社

武田薬品工業が展開するグローバルCSRプログラムの支援により、「地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム」をアフガニスタン、バングラデシュ、インド、ネパールの4カ国で実施しています。5年間で1,400人の医療従事者の能力強化と、約50万人への保健医療に関する知識とサービス提供に取り組んでいます。



助産師として養成された女性が新生児を診察する様子(アフガニスタン)



塩野義製薬株式会社

シオノギグループが販売する総合ビタミン剤「ポボン」シリーズで日本のお母さんの健康を応援しながら、その売上で社員からの寄付によりケニアでの母子保健プロジェクトを支援いただく「Mother to Mother SHIONOGI Project」。活動も4年目となり、幅広い保健の知識やスキルを持ち、コミュニティ保健を担う人材が育ってきています。



栄養不良の子どものモニタリング



パナソニック株式会社

2019年度より、ケニアでの「無電化地域ソリューションプロジェクト」を開始。支援地域内の学校、診療所、各家庭にパナソニックの太陽光発電・蓄電システム商材を提供し、それらを活用した収入創出活動、夜間識字教育などを実施することで、人々の生活改善・コミュニティの自立に貢献します。



太陽光発電・蓄電システムの電力によるあかりの下、夜間に勉強する小学生たち

チャイルド・スポンサーシップ等を通して



山崎製パン株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援くださっています。また2019年度は、ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金により、ケニアにおける水供給施設整備支援事業を実施しました。



ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金の目録を受け取るWVJ理事長の小西(左)



玉の肌石鹸株式会社

20年以上の長きにわたって世界の子どもたちを支援いただき、関係会社とあわせて100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を見守ってくださっています。



ネパールの子どもたち



株式会社チュチュアンナ

チャイルド・スポンサーシップを通して、25人のチャイルドを支援いただいています。特別プロジェクトも継続して支援いただき、2019年度は、ミャンマーでの就学前教育センター建設支援事業を実施しました。



完成した就学前教育センターで遊ぶ子どもたち

商品・サービスの売上げからの寄付



ジースブレッド株式会社 若尾製菓株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通じた支援に加え、「しあわせのカルテットクランチ」の売上げと、やさしさの輪を広げるために設立されたジースブレッド株式会社のお菓子「Happy Gift」「やさしさセット」の売上からの寄付により、アジア・アフリカでの学校建設を支援くださっています。2019年度は、ミャンマー、バングラデシュ、ケニアに続き4校目となるスリランカでの学校建設を実施しました。



新しい校舎で学ぶ子どもたち

支援・協力をいただいた企業(一部)



住友化学株式会社

東芝プラントシステム株式会社

東芝プラントシステム株式会社



三菱自動車工業株式会社



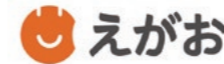
ハニカム・テクノロジー株式会社



プレコグループ



株式会社レントラックス



株式会社えがお



株式会社ウチヤマホールディングス



有限会社 香取運輸



株式会社ZOZO



株式会社シンシア



日清製粉株式会社



オリエンタル酵母工業株式会社



月島食品工業株式会社



アース製薬株式会社



ヤフー株式会社



株式会社NTTデータ

Eat Well, Live Well.



味の素株式会社

ミヨシ石鹸株式会社
株式会社ディバイン・ソリューションズ・ジャパン
MS&ADゆにぞんスマイルクラブ 日本手芸普及協会
有限会社友栄
株式会社Free Life Consulting
株式会社BOLS・1987
株式会社秋山住研

キャリアイクハーション株式会社
株式会社東和キャスト
山下湘南夢クリニック
株式会社isisホールディングス
株式会社マスバック
アキバ食品機械株式会社
株式会社アプリシエイト

株式会社ブルマーレ
株式会社ニッシンイクス
株式会社双雲事務所
医療法人社団スマイルこどもクリニック
株式会社タイセイ
株式会社インプレザリオ
三菱自動車STEP募金

各種団体との連携(一部)

1,173団体から、総額78,889,335円の支援が寄せられました

公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
気仙沼漁業協同組合
学校法人捜真学院捜真小学校
梅光学院大学
学校法人博多学園博多高等学校
梅光学院中学校・高等学校

学校法人ベタニヤ学園日進ベタニヤ幼稚園
学校法人広島女学院
日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会
グレースコミュニティ
日本ホーリネス教団 池の上教会
京都シャローム教会

ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会
プレッシングチャーチインターナショナル
カトリック小郡教会
日本キリスト教団 渋谷教会
シオン・キリスト教団 蒲田教会

広がる支援の輪(特別プロジェクト)

チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラムに加えて、教育、保健・栄養改善、水衛生など特定の分野の課題解決を後押しするための個別事業を「特別プロジェクト」として実施しています。特別プロジェクトは、学校校舎や診療所などの建設事業と研修・啓発事業などを組み合わせて行われます。支援者は企業・団体(P.19)、個人など様々ですが、近年では遺贈・相続財産のご寄付による支援も増えています。

個人による支援

ベトナムの幼稚園に調理場を建設

千葉県在住のK様は、毎年継続して主にアジアでの特別プロジェクトを支援くださっています。2019年度はベトナムの幼稚園分園で、調理場建設と備品の整備を実施。給食が提供されるようになり、園児の出席率が向上しました。保護者からは、「新しく、清潔な調理室ができ、子どもたちが安全で栄養価の高い食事をできるようになってとても嬉しいです。この幼稚園で子どもが学べることに安心しています。日本のご支援者に心から感謝しています」という声が届きました。



支援により建設した調理場



笑顔を見せる園児たち

遺贈・相続財産による支援

スリランカで幼稚園の修復・建設を支援

東京都在住の池上様は、ご自身の寄付とお義父様から引き継いだ相続財産により、お義父様が生前滞在されたスリランカで、2校の幼稚園の修復・建設を支援。実際に幼稚園を訪問され、支援の成果を視察するとともに、子どもたちとの交流を深めました。「子どもたちは、本当に可愛かったです。みんな幸せな人生を送ってほしい、と思いました。今までキレイな海や山、世界遺産を訪問しましたが、この子どもたちの笑顔以上に素晴らしい景色はありません」(池上様)



支援により建設した幼稚園園舎



開園式に参加した池上様(3列目、中央)

マイルストーン・プロジェクトによる支援

図書館建設と学校修復を支援

「マイルストーン・プロジェクト」は、一口あたり100万円の寄付を複数の方々からいただき、共同で一つの事業を実施するものです。共同で実施することで、より規模の大きい支援事業を実施することができます。2019年度は、カンボジアでの図書館建設支援事業と、イラクでの学校修復支援事業を実施しました。



紛争によって破壊された教室(イラク)



修復後の教室で、笑顔で学ぶ子どもたち(イラク)

皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動に参加いただいています

グローバル教育

8,067人が世界に目を向ける取り組みに参加

日本の子どもや若者が世界とつながるきっかけを提供したいと実施している「グローバル教育」。スタッフが教育機関を訪問し世界の子どもの様子を紹介する「講師派遣」のほか、WVJの活動に興味を持つ学生を受け入れる「事務所訪問」を実施しています。また夏休みには、小学生や親子で参加できるサマースクールも開催。これらの取り組みに、2019年度は8,067人が参加しました。

事務所訪問	講師派遣	サマースクール
受入回数 11回	実施回数 66回	実施回数 4回
参加人数 152人	参加人数 7,712人	参加人数 203人



毎年、大人気のサマースクール。実際に途上国で使われている水タンクを使い、親子でその重さを実感します

ワールド・ビジョン・カフェ

全国14カ所で開催、のべ364人が参加

WVJについての紹介や、チャイルド・スポンサーシップの支援地域で進められている活動等について報告する「ワールド・ビジョン・カフェ(WVカフェ)」を、各地で開催しています。2019年度は全国14カ所で開催し、のべ364人が参加しました。支援地訪問ツアー参加者によるプレゼンテーションや、参加者同士の交流も交えながら、支援地域の子どもの様子や活動の成果をお伝えしました。

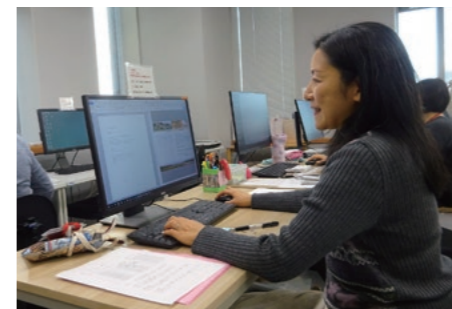


WVカフェin東京に参加くださった皆さま

ボランティア

334人の皆さまが、活動を支援してくださいました

事務所では、1日約15人の方が、チャイルド・スポンサーシップの手紙交流に関わる事務や翻訳、動画やデジタル素材の編集、WVJからのご案内の発送など幅広い業務を担当。学校の春休みや夏休み期間には、中高生の参加も増えました。また、日本・海外各地で218の方が在宅で翻訳を、その他WVJが実施するイベントでも多くのご協力をいただきました。



Webシステムを通じて在宅で翻訳されたチャイルドからの手紙は、事務所で確認し、チャイルド・スポンサーに届けられます

ボランティアの声

中学生の頃から国際協力の仕事に憧れ、現場の空気の中に身を置くことで実際の活動への理解を深めたいという思いからボランティアを始めました。チャイルドやチャイルド・スポンサーからの温かい手紙や、スタッフの皆さんの献身と熱意に日々触れることができ、少しでも子どもたちの幸せに貢献したいという思いがより一層強くなりました。



大学生の田中朋さん。Facebookの原稿執筆や翻訳等で活躍



年に一度開催する「ボランティア感謝会」

Take Back Futureキャンペーン関連イベント



次世代の变革の担い手となる若者が、難民問題という地球規模の課題を身近なこととして考えることを願い、様々なイベントを開催しました。

※Take Back Futureキャンペーンについて詳しくはP18下をご覧ください。

第3回難民ユースシンポジウム2019

「世界難民の日」を控えた6月2日、「アフリカ最大の難民居住地の現状とその未来」と題したシンポジウムを開催しました。前半のパネルディスカッションでは、元南スーダン難民の男性、難民キャンプを訪れた日本の高校生、難民の受け入れを積極的に進める国際基督教大学の野垣修教授、ジャーナリストの古田大輔氏が登壇し、意見交換を行いました。後半は、特別ゲストとして駐日ウガンダ大使が登場。ウガンダが難民に寛容な政策をとる背景を語っていただきました。集まった100人の若者たちからも随時質問が飛び交う等、活発なシンポジウムとなりました。



多様な登壇者がそろったパネルディスカッション

アイデア・コンペティション「未来ドラフト2019」

若い世代が難民問題に関心を寄せるきっかけになることを願い、「SKETCH THE FUTURE 未来ドラフト2019～わたしと難民がつながるアイデア・コンペティション」を実施しました。2回目となる2019年度のテーマは「ビディビディ難民居住地(ウガンダ)に住む子どもたちにとって、“一生忘れられない授業”を考えてください」というもので、前回を上回る223件のアイデアが全国から寄せられました。6月16日には、ベスト8に進んだチームが観客の前でアイデアを競う決勝大会を開催。子どもたちの口腔衛生に着目したアイデア「見せてとびきりの笑顔～Let's share smiles」がグランプリに輝きました。



決勝大会でプレゼンした8チームと審査員、司会、協賛企業の皆さま

「未来ドラフト2018」のグランプリアイデアを実現しました！

前回の「未来ドラフト2018」でグランプリを受賞したアイデア「ビディビディキャラバン」を実現するため、2019年1月、アイデア実現部隊がウガンダのビディビディ難民居住地を訪れました。アイデアのテーマは、様々なバックグラウンドを持つ難民の子どもたちが、楽しみながらお互いの違いを乗り越えること。たくさんのお楽しみアイテム(映画や日本の遊び道具)を搭載したキャラバン(ワゴン車)が難民居住地をめぐり、子どもたちに楽しいひと時を提供しました。また、子どもたちによる子どもたちへの平和スピーチも同時に開催。「私たちは南スーダンのピース・メーカーになるんだ」等、力強い言葉が聞かれました。

◀ 映画上映会に集まった子どもたちに語りかけるアイデア実現部隊のメンバー

2019年度 会計報告

正味財産増減の状況 2018年10月1日より2019年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減			
経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	3,126,876	
	受取その他募金・寄付金(1)	793,431	3,920,307
2 受取補助金等	政府系機関からの受取補助金等	215,555	
	(2) 民間団体からの受取補助金等	557,592	
	国連機関からの受取委託金等	1,373,979	2,147,126
3 受取会費		610	
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益		1,880	
経常収益合計(A)		6,069,923	
経常費用			
1 事業費	地域開発援助事業費	4,864,107	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	4,662,107	
	地域開発援助事業管理費(5)	202,000	
	人材派遣費(3)	32,341	
	啓発教育費	849,198	
	各種啓発教育費(4)	496,816	
	啓発教育事業管理費(5)	352,382	5,745,646
2 管理費(5)		89,713	
経常費用合計(B)		5,835,359	
経常外収益			
1 固定資産売却益		103	
経常外収益合計(C)		103	
当期一般正味財産増減額(A+C)-(B)		234,667	
一般正味財産期首残高		1,194,467	
一般正味財産期末残高(D)		1,429,134	
II. 指定正味財産増減			
当期指定正味財産増減額		24,040	
指定正味財産期首残高		591,688	
指定正味財産期末残高(6)(E)		615,728	
III. 正味財産期末残高			
正味財産期末残高(※※)(D)+(E)		2,044,862	

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費2,340千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。

※※正味財産の内訳は、資産・負債の状況のIII.正味財産の部を参照ください。

(1)~(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2019年度財務諸表等(2018年10月1日より2019年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。

2019年11月13日 石川康彦公認会計士事務所による監査

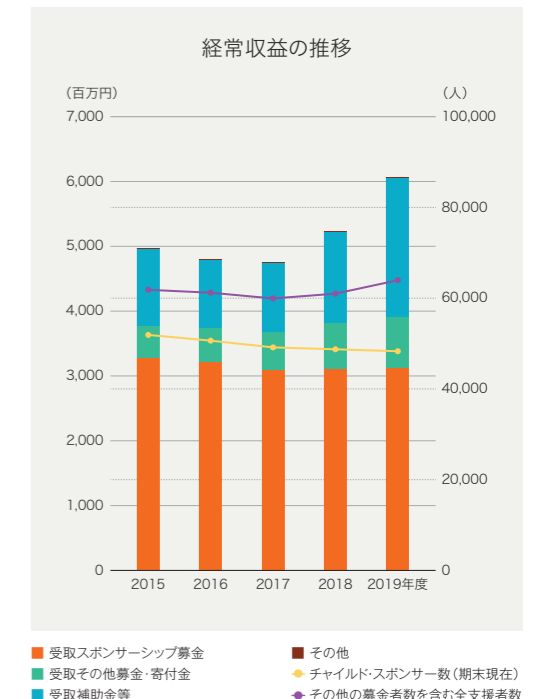
2019年11月26日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 チャイルド・スポンサーシップ募金：「受取スポンサーシップ募金」
 その他募金・寄付金：「受取その他募金・寄付金」
 補助金等：「受取補助金等」
 その他：「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」
- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 現地事業活動のため：「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
 広報活動のため：「啓発教育費」
 団体の運営・管理のため：「管理費」

資産・負債の状況 2019年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部		
1 流動資産	現金預金	475,053
	前払金	441,870
	立替金	30,160
	仮払金	2,343
	その他流動資産	366
		314
2 固定資産		1,830,565
	基本財産	50,000
	特定資産(6)	1,705,221
	補助金・助成金引当資産	419,660
	地域開発援助事業引当資産	963,267
	特定事業引当資産	196,068
	その他特定資産	126,226
	その他固定資産(7)	75,344
資産合計		2,305,618
II. 負債の部		
1 流動負債	未払金	134,530
	預り金	90,941
	賞与引当金	20,838
	未払法人税等	22,681
		70
2 固定負債		126,226
	退職給付引当金	126,226
負債合計		260,756
III. 正味財産の部		
1 指定正味財産		615,728
	(うち特定資産(6)への充当額)	(615,728)
2 一般正味財産		1,429,134
	(うち基本財産への充当額)	(50,000)
	(うち特定資産(6)への充当額)	(963,267)
正味財産合計		2,044,862
負債及び正味財産合計		2,305,618



会計報告の注記

●重要な会計方針の要約

- 1) 財務諸表の作成基準**：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」（公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ 平成16年10月14日）に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
- 2) 固定資産の減価償却について**：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。
- 3) 引当金の計上基準**：
 - 賞与引当金：職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
 - 退職給付引当金：職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務および年金資産に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。
- 4) 消費税等の会計処理**：消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

(1) 受取その他募金・寄付金の内訳(単位:千円)

児童保護募金	4,923
誕生日記念募金	23,368
危機にある子どもたちのための募金	30,560
ラブ・ロープ募金	12,313
うちラブ・ロープ募金	1,667
うちヤマザキ「ラブ・ロープ」募金	10,646
緊急援助募金	10,583
うちイラク国内避難民緊急支援募金	3
うち緊急食糧援助募金	15
うちシリア緊急支援募金	387
うちマンマー難民危機緊急支援募金	166
うちインドネシア地震緊急支援募金	6,198
クリスマス募金	97,995
水と食糧のための募金	12,116
夏期募金	125
難民支援募金	82,293
コミュニティ・サポーター	1,795
プロジェクト・サポーター	56,502
プロジェクト・サポーター(難民支援)	14,100
アオスの子どもたちのための募金	56,579
特別プロジェクト募金	229,774
物資の受入	13,596
その他の募金・寄付金	146,809
受取その他募金・寄付金合計	793,431

(3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

(4) 各種啓発教育費の内訳(単位:千円)

広告費	402,095
各種広告費	355,852
パンフレット等印刷費・通信運搬費他	46,243
広報費	31,168
年次報告書(2018年度版)制作・発送費等	10,106
団体ホームページ制作費等	6,387
その他の広報活動費	14,675
ニュースレター制作・発送費等	17,692
チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・発送費等	39,451
その他啓発費等	6,410
グローバル教育活動・学校訪問等の費用	2,727
ラブ・ロープ募金箱の製作・運搬費等	1,198
活動報告会	1,138
その他の啓発活動費	1,347
各種啓発教育費合計	496,816

(2) 受取補助金等の内訳(単位:千円)

政府系機関からの受取補助金等	215,555
外務省 日本NGO連携無償資金協力	200,035
エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(1年次)	-1,285
エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(2年次)	-888
エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(3年次)	29,942
バングラデシュ/シレット県コワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(1年次)	-113
バングラデシュ/シレット県コワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(2年次)	-132
バングラデシュ/シレット県コワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(3年次)	29,177
ネパール/ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(2年次)	22,875
ネパール/ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(3年次)	76,071
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途10,142千円保有しています。)	
カンボジア/タケオ州における母子健康改善事業(2年次)	21,570
カンボジア/タケオ州における母子健康改善事業(3年次)	22,818
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途21,604千円保有しています。)	
外務省NGO海外スタディ・プログラム(平成30年度)	280
外務省NGO活動環境整備支援事業 NGOインターン・プログラム(平成30年度)	1,300
外務省 NGO研究会(平成30年度)	3,024
独立行政法人国際協力機構 草の根技術協力事業	10,916
ルワンダ共和国東部州における小規模生産者グループの経済活動及びマネジメント向上支援プロジェクト	10,916
民間団体からの受取助成金等	557,592
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム	546,002
南スーダン/タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業2	5,486
南スーダン/タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業3	207,006
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途9,028千円保有しています。)	
南スーダン/ワラップ州飢饉対応における栄養支援事業1	-1
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業4	-2,090
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業5	36,677
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業6	1,138
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途122,781千円保有しています。)	
エチオピア南スーダン難民キャンプでの教育環境整備事業 第2期	3,278
エチオピア・ガンベラ州ジョウイ難民キャンプにおける中等教育環境整備事業	57,145
バングラデシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力削減支援事業	70,364
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途4,830千円保有しています。)	
バングラデシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力被害防止事業	2,102
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途18,773千円保有しています。)	
ウガンダ南スーダン難民居住地での教育環境および子どもの保護環境改善事業	49,881
ウガンダ北部における難民居住地での教育・子どもの保護事業	26,850
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途29,174千円保有しています。)	
イラク/モスル西部の脆弱な帰還民、避難民およびホストコミュニティの子どもたちへの教育支援事業	18,081
イラク/モスル西部で紛争の影響を受けた子どもたちのための教育・保護環境改善事業	41,218
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途25,727千円保有しています。)	
南スーダンセントラル・アッパーナイル・緊急期の教育支援事業	7,174
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途123,208千円保有しています。)	
シリア南西部における紛争の影響を受けた子どもたちの教育・保護支援事業	21,693
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途54,393千円保有しています。)	
公益財団法人ウェスレー財団	479
「小中高生対象グローバル教育プログラム」支援金	479
味の素株式会社	-2,232
SMS-RUTF Efficacy Validation Project	-2,232
パナソニック株式会社	5,716
ケニアエンクトト地区電化による生活改善支援事業	5,716
World Vision International	7,627
Digital Experience development Project	7,627
国際機関からの受取委託金等	1,373,979
国連児童基金(UNICEF)	81,048
国連開発計画(UNDP)	37,924
国連世界食糧計画(WFP)	921,249
うち、受取委託物品	737,687
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	212,947
南スーダン保健合同基金	120,811
受取補助金等合計	2,147,126

マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。

(5) 事業管理費等の内訳、および集計(単位:千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。
 地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接かかわる国内管理費
 啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接かかわる国内管理費
 管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

	事業管理費等合計	地開管理費	啓発管理費	管理費
人件費等	401,778	149,901	192,289	59,588
会議費	4,154	1,893	695	1,566
旅費交通費	17,103	6,198	8,502	2,403
賃借料	74,279	26,303	36,715	11,261
支払手数料	96,234	447	92,301	3,486
その他の管理費	50,547	17,258	21,880	11,409
合計	644,095	202,000	352,382	89,713

人件費等：職員等の給与手当、法定福利費等。なお2019年9月30日現在、職員79名、嘱託・アルバイト3名が在職
 会議費：ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用
 旅費交通費：職員の通勤費、事務ボランティアの方の事務所までの交通費等
 賃借料：事務所家賃
 支払手数料：入金にかかる口座引落およびクレジット決済等の手数料、銀行・郵便局等金融機関の振込手数料等

(6) 特定資産の内訳(単位:千円)

補助金・助成金引当資産(指定正味財産)の内訳	
NGO連携無償助成金ネパール3年次事業分	10,142
NGO連携無償助成金カンボジア3年次事業分	21,604
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダントンブラ郡3事業分	9,028
ジャパン・プラットフォーム助成金ヨルダン6事業分	122,781
ジャパン・プラットフォーム助成金バングラデシュ2事業分	4,830
ジャパン・プラットフォーム助成金バングラデシュ3事業分	18,773
ジャパン・プラットフォーム助成金ウガンダ2事業分	29,174
ジャパン・プラットフォーム助成金イラク2事業分	25,727
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダンセントラル・アッパーナイル1事業分	123,208
ジャパン・プラットフォーム助成金シリア1事業分	54,393
補助金・助成金引当資産合計	419,660
当年度までに受領した上記事業にかかる補助金のうち、2020年度以降に支出を予定している金額です。	

地域開発援助事業引当資産の内訳

スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(7)	723,000
一般募金による地域開発援助事業引当資産(1)	229,000
緊急援助事業引当資産(7)	10,000
国内災害緊急援助事業引当資産(1)	1,267
地域開発援助事業引当資産合計	963,267

(7)チャイルド・スポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に使途を特定した資産であり、2020年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。
 (1)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急・復興支援事業含む)に使途を特定した資産であり、2020年度以降に支出を予定しています。
 (7)大規模な自然災害や紛争の発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。
 (1)国内災害のための緊急支援活動に使途を特定した資産です。

特定事業引当資産(指定正味財産)の内訳

地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム4年次以降事業分	196,068
特定事業引当資産合計	196,068

その他特定資産の内訳

退職給付引当資産	126,226
その他特定資産合計	126,226

(7) その他の固定資産の内訳(単位:千円)

建物附属設備	6,339
什器備品	13,974
ソフトウェア	4,746
電話加入権	373
敷金	49,912
その他の固定資産 合計	75,344

(8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

(9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。2019年度(2018年10月1日~2019年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=108.50円でした。

監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2名の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3~5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対応を行います。

2019年度 支援事業一覧

注記1 「物」と記載のある支援額は、物資支援を円貨換算したものです。
 注記2 助成・委託団体名は下記の通りです。
 A: 外務省 日本NGO連携無償資金協力 D: 国連児童基金【UNICEF】 G: 南スーダン保健合同基金【Health Pooled Fund】
 B: 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム【JPF】 E: 国連難民高等弁務官事務所【UNHCR】 H: パナソニック株式会社
 C: 国連世界食糧計画【WFP】 F: 国連開発計画【UNDP】

海外支援	国名	プロジェクト名	チャイルド・スポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)			
カンボジア	カンボジア	ポニャー・ルウ地域プログラム	29,617,721			29,617,721	28,955	900			
		トモ・アオ地域プログラム	29,206,626			29,206,626	6,609	1,100			
		ホレイ・チュルサル地域プログラム	46,581,540			46,581,540	13,858	1,800			
		タケオ州における母子健康改善事業(2年次)		5,190,483	18,140,938	A	23,331,421	239,656			
		タケオ州における母子健康改善事業(3年次)		6,248,115	21,747,436	A	27,995,551	239,656			
		カンボジア王国飲料水給水システム整備支援事業		3,538,162			3,538,162	5,878			
		カンボジア王国小学校併設 図書館建設支援事業		3,685,617			3,685,617	423			
		カンボジア王国アンロン・ティアン小学校修繕支援事業		2,211,392			2,211,392	86			
		カンボジア王国アム・トゥマイ小学校修繕支援事業		2,211,392			2,211,392	539			
		カンボジア王国トゥマ・サ小学校 図書館建設支援事業		3,685,617			3,685,617	503			
ラオス	ラオス	旧バランサイ地域プログラム	16,062,600			16,062,600	10,000				
		旧タバントン地域プログラム	8,352,552			8,352,552	12,000				
		旧タバントン地域プログラム繰越金(FY18からFY19へ)	1,205,230			1,205,230	12,000				
モンゴル	モンゴル	ハイラアスト地域プログラム	51,607,528			51,607,528	52,442	2,000			
		バヤン・ウルギー地域プログラム	56,134,503			56,134,503	18,000	2,200			
東アジア	東アジア	タイワン地域プログラム	32,426,427			32,426,427	30,000	1,300			
		洪水被災地支援事業			5,035,571	C/物	5,035,571	29,436			
		カー州におけるフード・フォー・アセットを通じた地域開発支援事業			887,890	C	887,890	836			
		ライオン州における食糧配布事業および栄養支援事業			253,346	C	253,346				
		ライオン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業①)			22,224,298	物	22,224,298	41,300			
		ライオン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業②)			6,393,553	C	6,393,553				
		ライオン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業③)			125,601,049	物	125,601,049	133,419,890	69,181		
		ライオン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業④)			1,425,288	C	1,425,288				
		ライオン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業⑤)			1,070,840	C	1,070,840				
		ライオン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業⑥)			41,535,554	物	41,535,554	44,033,679	65,404		
ミャンマー	ミャンマー	マガウェイ管区におけるキャッシュ・フォー・アセットを通じた災害復興およびレジリエンス強化事業	568,188			10,884,332	C	11,452,520	5,825		
		ヤンゴン管区における乳幼児および妊産婦への栄養支援事業				4,504,769	C	4,504,769	850		
		ヤンゴン管区における乳幼児および妊産婦への栄養支援事業(上記継続事業)				224,341	C	6,903,048	910		
		ミャンマー高床式住居洪水対策事業				2,955,840	C	2,955,840	314		
		就学前教育センター建設支援事業				4,791,259	C	4,791,259	1,581		
		ブヤン郡区就学前教育センター建設支援事業				14,752,320	C	14,752,320	146		
		トントン地域プログラム				21,726,915	C	21,726,915	14,500		
		タハラ地域プログラム				19,558,678	C	19,558,678	36,285		
		チャンエン地域プログラム				28,512,828	C	28,512,828	18,000		
		ムオンチャ地域プログラム				26,901,429	C	26,901,429	11,000		
タイ	タイ	トントン地域プログラム				28,181,617	C	13,900			
		ダバック地域プログラム				30,717,045	C	12,000			
ベトナム	ベトナム	カルマカンダ地域プログラム				36,256,502	C	57,300			
		フルバリア地域プログラム				65,920,910	C	165,301			
南アジア	南アジア	ピロル地域プログラム				56,362,379	C	138,822			
		ビルゴンジ地域プログラム				49,440,683	C	73,600			
		シレット県ゴインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(3年次)				4,874,754	A	22,802,053	70,000		
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(パングラアシュ)				23,344,205	C	23,344,205	205,020		
		パングラアシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力削減支援事業				6,757,076	B	74,111,635	24,910		
		パングラアシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力被害防止事業				939,232	B	939,232	661		
		パンダルボン県 水衛生環境整備支援事業(パンダルボン県ジョーラ部/パルバムスリム村、他)				884,514	C	884,514	400		
		パンダルボン県 水衛生環境整備支援事業(パンダルボン県ジョーラ部/ドゥンキ村、他)				1,474,225	C	1,474,225	400		
		ミャンマー難民の子どものおび妊婦中・授乳中の母親に対する栄養支援事業				5,077,240	C	7,005,134	20,961		
		ミャンマー難民に対する食糧支援事業				5,568,224	C	6,742,215	98,260		
東アフリカ	東アフリカ	ミャンマー難民の子どものおび妊婦中・授乳中の母親に対する栄養支援事業				910,214	C	2,047,794	19,266		
		ミャンマー難民の子どものおび妊婦中・授乳中の母親に対する栄養支援事業				5,514,291	E	1,499,123,674	16,887		
		ミャンマー避難民ホストコミュニティの脆弱な世帯に対する現金給付事業				5,514,291	E	154,637,965	16,887		
		サダベト地域プログラム				28,784,179	C	28,784,179	42,000		
		キラウ地域プログラム				32,472,152	C	32,472,152	40,000		
		ブドコック地域プログラム				34,181,213	C	34,181,213	40,000		
		カンドクール地域プログラム				13,663,812	C	13,663,812	35,903		
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(インド)				18,483,448	C	18,483,448	189,200		
		トウナ地域プログラム				21,416,800	C	21,416,800	36,279		
		インドネシア地震緊急支援				4,604,612	C	4,604,612	120,000		
インドネシア	インドネシア	インドネシア地震緊急支援				35,564,523	C	15,811			
		ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(2年次)				5,339,554	A	18,471,542	25,255		
ネパール	ネパール	ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(3年次)				8,680,216	A	82,827,391	25,255		
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(ネパール)				22,498,241	C	22,498,241	31,163		
フィリピン	フィリピン	西ドティ地域プログラム				439,044	C	195			
		レイテ地域プログラム				32,125,200	C	146,434			
スリランカ	スリランカ	サマル地域プログラム				38,550,241	C	34,963			
		サマル州アネボンゴン小中一貫校図書館建設支援事業				4,283,360	C	604			
東アフリカ	東アフリカ	リディアマヤダ地域プログラム				19,789,124	C	31,503			
		ネルフ部アフレガマ小学校建設支援事業				2,948,451	C	102			
		リディアマヤダ郡 就学前教育センター(幼稚園)支援事業				36,944	C	75			
		ケセルボタヤ11 初中等学校理科管支援事業				1,842,809	C	627			
		ゴンダール・スリア地域プログラム				60,947,930	C	115,000			
		テラ地域プログラム				60,947,930	C	100,000			
		エチオピア	エチオピア	エチオピア・ガンベラ州ジョウィ難民キャンプにおける中等教育環境整備事業				8,146,758	B	55,591,593	61,190
		アマハラ州産婦・新生児の健康改善事業(3年次)				2,966,228	A	22,958,976	90,000		
		緊急期の教育分野に関するキャパシティ・ビルディング事業				1,402,800	C	1,402,800	30		
		イラムダク地域プログラム				40,691,920	C	40,691,920	15,000		
ケニア	ケニア	ケニア				37,479,400	C	21,712			
ケニア	ケニア	Mother to Motherプロジェクト(シオノダ製品で日本の母を元気にしながら、ケニアの母も健康に1)によるケニア共和国における母子保健支援事業(4年次)				11,905,572	C	14,612			
東アフリカ	東アフリカ	エングト地区電化による生活改善支援事業				508,190	C	12,704,000	3,758		
		水供給設備整備支援事業				13,595,745	物	10,194,718	3,545		
		キラムルジ地域プログラム				65,367,928	C	30,955			
		グウィガ地域プログラム				69,782,038	C	29,117			
		難民キャンプにおける水衛生及び教育支援事業				13,756,867	E	56,951,816	75,507		
		グウィガ地域プログラム内のコミュニティサポートプログラム				439,044	C	1,981,054	400		
		ルワンダ脆弱な世帯に対する栄養支援事業				1,981,054	C	1,981,054	400		
		ソマリアの脆弱な世帯に対する栄養支援事業				15,260	C/物	15,260	68,002		
		ソマリアの脆弱な世帯に対する栄養支援事業				82,399	C	82,399	137,341		
		ソマリアの脆弱な世帯に対する栄養支援事業(第2期)				1,239,819	C	11,286,656	23,781,388		
ソマリア・サウスセントラルにおける栄養支援事業				696,046	C/物	2,907,649	3,603,695				
ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業				1,070,840	C	1,547,815	8,534,112				
ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業(2019)				5,915,457	物	5,915,457	2,459,292				
ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業(2019)				2,459,292	C/物	2,459,292	40,019				

海外支援	国名	プロジェクト名	チャイルド・スポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)	
南アジア	南アジア	タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業3				17,138,708	B	211,858,842	55,365
		セントラル・アッパー・ナイル・緊急期の教育支援事業				440,822	B	7,260,267	2,603
		南スーダン・複数地域における飢餓対応および食糧改善前事業					138,083	C	138,083
		南スーダン・アッパー・ナイル州・緊急食糧支援事業(RRM)				374,794	C	3,440,979	7,023,382
		南スーダン・アッパー・ナイル州・緊急食糧支援事業					3,207,609	物	246,165
		南スーダン・アッパー・ナイル州・緊急食糧支援事業				374,794	C	1,834,924	13,514,006
		南スーダン・アッパー・ナイル州・緊急食糧支援事業					11,304,288	物	110,584
		フラップ州緊急食糧支援事業				374,794	C	4,457,370	18,703,392
		南スーダン・ジュバ(PoC)緊急食糧支援事業					13,871,228	物	120,546
		南スーダン・ジュバ(PoC)緊急食糧支援事業				374,794	C	2,215,274	3,219,873
東アフリカ	東アフリカ	北ババル・エル・ガザール州緊急食糧支援事業				449,753	C	2,496,168	28,026,384
		北ババル・エル・ガザール州緊急食糧支援事業					25,080,463	物	237,895
		西エクトリア州・緊急食糧支援事業				374,794	C	5,584,314	13,707,829
		フラップ州2歳児未満の重度栄養不良予防事業					323,226	C	323,226
		フラップ州食糧支援事業 2019				696,046	C	797,159	15,634,932
		フラップ州食糧支援事業 2019					14,141,727	物	231,445
		緊急対応メカニズム構築支援事業				696,046	C	1,907,896	11,898,747
		緊急対応メカニズム構築支援事業					9,294,805	物	226,026
		マラカ州における緊急食糧支援事業				696,046	C	1,127,969	19,858,453
		マラカ州における緊急食糧支援事業					18,034,438	物	113,710
東アフリカ	東アフリカ	メルト郡・レンク郡における緊急食糧支援事業				696,046	C	1,033,918	13,115,943
		メルト郡・レンク郡における緊急食糧支援事業					11,385,979	物	53,527
		中央エクトリア州における緊急食糧支援事業				696,046	C	2,351,556	16,852,456
		中央エクトリア州における緊急食糧支援事業					13,804,854	物	58,023
		北ババル・エル・ガザール州における緊急食糧支援事業				696,046	C	750,892	15,977,007
		北ババル・エル・ガザール州における緊急食糧支援事業					14,530,069	物	408,544
		食糧配布・現金給付のための情報管理システム(SCOPE)登録事業				1,070,840	C	4,911,518	5,982,358
		西エクトリア州コソコ難民・中央アフリカ共和国難民人道支援事業				4,450,518	E	8,167,545	12,618,063
		南スーダン・緊急期の教育支援事業(第2期)					1,014,876	D	1,014,876
		南スーダン・緊急期の教育支援事業(第3期)				17,372,451	D	64,518,250	81,890,701
東アフリカ	東アフリカ	アッパー・ナイルのレンク・メルト・マバシにおける保健サービス支援事業				1,812,932	D	15,514,942	17,327,874
		南スーダン栄養・母子保健支援事業					52,771,349	G	60,000
		南スーダン栄養・母子保健支援事業2				6,743,294	G	68,039,615	74,782,909
		南ダフル州収収後損失防止に向けた研修事業					4,962,550	C	1,900
		南ダフル州国内避難民キャンプとその周辺における食糧配布事業				374,794	C	1,379,171	19,129,578
		南ダフル州国内避難民キャンプとその周辺における食糧配布事業					17,375,613	物	283,880
		南ダフル州国内避難民キャンプとその周辺における食糧配布事業				697,224	C	210,116	19,805,178
		南ダフル州国内避難民キャンプとその周辺における食糧配布事業					18,897,838	物	286,398
		南および東ダフル州州食料生産セーフティネット構築事業				1,001,342	C	1,206,712	21,322,675

ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョンは、約100カ国で活動する世界最大の国際NGOです

ワールド・ビジョンの始まり

ワールド・ビジョンの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ポブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったポブ・ピアスは、「すべての人々に『何か』はできなくとも、誰かに『何か』はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どものために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



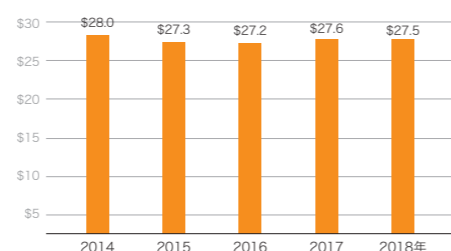
ワールド・ビジョン創設者
ポブ・ピアス



組織と運営

ワールド・ビジョン・パートナーシップにおいて、日本を含む支援国では、各国で独自に総会・理事会を持ち、その国のワールド・ビジョンの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。ワールド・ビジョン全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を始める国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、ワールド・ビジョン・パートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

ワールド・ビジョン全体の収入推移(億米ドル)



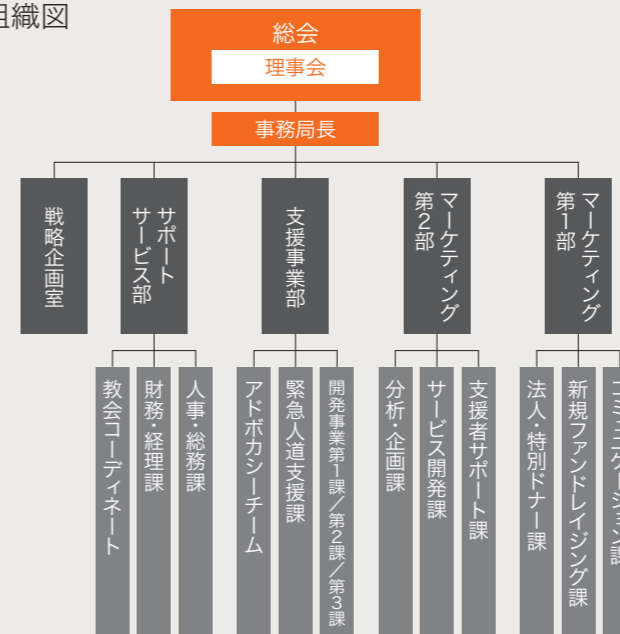
ワールド・ビジョン・ジャパンについて

ワールド・ビジョンは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年に特定非営利活動法人の認証を得、法人格を持つ民間援助機関としてその歩を進めています。2002年5月、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月からは、東京都より改めて認定されています。



組織図



役員・親善大使(全員無給です)

理事長	小西 孝蔵(元農林中央金庫監事)
理事	峯野 龍弘(ウェスレアン・ホーリネス教団定橋教会牧師)
理事	湊 晶子(広島女学院大学院長・学長)
理事	三木 晴雄(玉の肌石鹸株式会社代表取締役会長)
理事	安西 愈(弁護士)
理事	村上 宣道(一般財団法人太平洋放送協会名誉会長)
理事	樋口 紀子(梅光学院大学院長・学長)
理事	杜 明翰(Hank Du)(ワールド・ビジョン・インターナショナルアジアマーケットリーダー)
理事	安藤 理恵子(玉川聖学院 中等部・高等部学院長)
監事	飯島 延浩(山崎製パン株式会社代表取締役社長)
監事	中島 秀一(日本イエス・キリスト教団荻窪栄光教会牧師)

親善大使 ジュディ・オング(歌手・女優・木版画家)
親善大使 酒井 美紀(女優)

事務局長・業務執行顧問

事務局長 木内 真理子
業務執行顧問 片山 信彦
(前特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)

2020年2月1日現在

SDGsへの取り組み

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は、持続可能で多様性と包括性のある社会を実現するため、2015年に国連サミットで採択されました。貧困や飢餓、教育、平和等の解決するための17の目標が掲げられており、ワールド・ビジョンは、子どもたちの健やかな成長を目指す活動を通して、その達成に貢献しています。

